

Asahi Business Club

経営者の「元気!」を応援する
朝日生命経営情報マガジン

2020

Vol.290

6

知っておきたい時代をつかむキーワード

「ダイナミックプライシング」
導入で、収益を増大!

そこが知りたいSDGs

①森平爽一郎教授インタビュー

②企業訪問 株式会社オオスミ

経営者が語る「経営の転機」

駒村 武夫

【株式会社ソフケン】

のこしたい風景

エトナ山

臓器のはなし

小腸

再建者群像

三遊亭 圓朝

日本の「元気! 会社」訪問

株式会社サン食品

事業承継トラブルサポート

従業員持株会の活用

経営者のお悩み相談室

定年を迎える社員への対応

ABCゴルフ教室

入れたくなかったバンカーから
ナイスリカバリー②

オリンピックこぼれ話

1960年 ローマ大会(イタリア)

NIPPONすぐれモノ

「和ポップコーン」

【錦一葉(株式会社KAWAKATSU)】

明日の本棚

【今月のテーマ】人生相談

暮らしに役立つアイデア豊かなモノづくり 『ユビラーク』、『ラクパネ』などヒット続々

株式会社ソフケン(代表取締役) 駒村 武夫



アイデアと技術力を生かした製品に取り組み ファーストワン、オンリーワンを次々に発信・提案 モノづくりの世界に独自のポジションを築き上げた

40歳を目前にしての 独立、開業

高校を出て就職した通信機器・エレクトロニクスデバイスメーカーでは当時、日本第1号といわれた押しボタン式電話機、いわゆるプッシュホンのデザインなどに携わっていました。また転職先の医療・衛生用品メーカーでは新規事業開拓セクションに属し、シヨックアブソーバや販促用ガス風船の事業化といったプロジェクト

トに企画段階から関わらせてもらいました。とても面白い仕事で、やりがいも感じられる日常ではあったのですが…。ある頃から、組織にとっぴりと浸かり、組織の論理に縛られ、慣らされつつある自分自身に気づき始めます。そんなときに浮かんできたのが、人生の師と仰ぐ高校時代の校長 米山芳成先生から卒業に際し、贈られた言葉でした。

それは、3つのBです。まずはBEST——最善を尽くすこと。次にBRAVE——勇気をもって決断すること。そしてBENEVOLENT——耳慣れない言葉ですが、先生によれば広い意味での愛・慈悲を指すとのこと。これからの各々の人生のなかで、各々にとってのBENEVOLENT・慈悲について考えてほしい、といったエールを心深く刻みました。

人生の来し方に多少、思い悩んで

いた私の心のもしびであり指針となっていました。さあ、いまが決断のとき。2社あわせてトータル約18年間に及んだサラリーマン生活に区切りをつけ、独立へと踏み出す決意を固めます。知人が営む町工場の一角を借り、製図版と紙と鉛筆だけでスタート。社名はソフケンとしました。ソフト技術を略したもので、知的財産・特許などを拠り所としたモノづくりの追求という理念を落とし込んだ社名です。昭和58年1月、40歳を目前にしての経営者への転身でした。

アイデア小物で 経営基盤固め

小さな資本で立ち上げた会社です。受託開発を主業務に、支出を極力抑えつつ草創期を乗り切っていくこととしました。具体的には、サラリーマン時代に知己を得ていた特許事務所



と組み、持ち込まれるアイデアを具現化して出願までをお手伝い。加えて、古巣である通信機器・エレクトロニクスデバイスメーカーの研究開発部門との思わぬ縁により、マイクロ波機器をはじめとした理化学機器・ニューモデルのデザインのお手伝いなども。人脈に恵まれたおかげもあって、仕事量確保の面での苦労はさほどなかったように思います。

1年も経った頃、経営に一つの転機が訪れます。それが、オリジナル商品『ユビラーク』の上市です。身内の高齢者の肩揉みをしているうちに浮かんだアイデアをもとに開発したもので、指にはめるだけで揉む力を高められる、樹脂製の指圧補助具(特許





確立。「ユビラック」においては製業会社より、家庭業向けのノベルティとしての発注獲得にも成功しています。大きく飛躍

取得)です。使い勝手には自信がありました。製造は外部委託。また営業販売に関してはノウハウも、マンパワーもなかったため、その方面に強い業者へ任せることに。やがて家電大手系列販社との間でノベルティとしての採用商談がまとまります。大量の受注が安定的に舞い込み、業績も向上に。おかげで間借りの身から脱し、賃借オフィスへ移ることもできました。

また「ユビラック」に引き続き、オリジナルのアイデア小物第2弾として歯間ブラシ「ハックリン」を商品化。大手ドラッグストアチェーンとの商談がまとまり、店頭で直接、消費者の皆さんに当社商品を手にしていただけることになりました。

この頃になると販路開拓、お客様フォロワーを含めた営業活動全般に関しても原則、自前で行っていく体制を

新たな挑戦—— 医工連携への参画

近年における経営面での革新的な取り組みとして挙げたいのが、千葉県中小企業産業振興政策の一環に位置づけられた「医工連携」への参画です。医側には国立がん研究センター、千葉大学、ならびに柏市民病院長の各機関が参集。私ども「工」側で保有するアイデアや技術力を取り込みながら次世代医療の確立をめざすプロジェクトです。

大きなテーマの一つに掲げられた、熟達がん専門医による手術手技の数値化、見える化。後に続く若手医師たちの教育に役立てようというのが、その主たる狙いです。当社ではシス



ここ二十数年来、当社主力事業の座を不動にしているのがアルミ押し出し材に独自の加工を施したパネルやフレーム、ならびにその派生商品群です。ポスターフレーム、展示スタンド、展示台、店舗什器をはじめ、パーテーションやクリーンルーム、喫煙室、移動店舗などへと応用範囲を広げています。

起点となったのが昭和60年代初頭、某有名テーマパーク向けの公式グッズを手がける企業より開発依頼のあったジグソーパズル用のアルミフレームでした。難しい注文・要望にアイデアと技術力でお応えして満足＆納得いただき、受注に成功。以来、永年にわたってOEM供給しています。平成の時代を迎えて間もなく、事業の本格展開を期して当社オリジナルのポスターフレーム「クリックフレーム」(現「ソフケン」)を市場投入。一般的な額縁のように裏側パネルを取り外すのではなく、フレームの一



テムの眼となるデバイスセンサーの開発を担当。その成果を平成30年、ロンドンで開催された国際医学会「The European Association of Endoscopic Surgery (EAES)」にて、国立がん研究センター東病院大腸外科・西澤祐史医師により発表。国際特許も申請済みです。

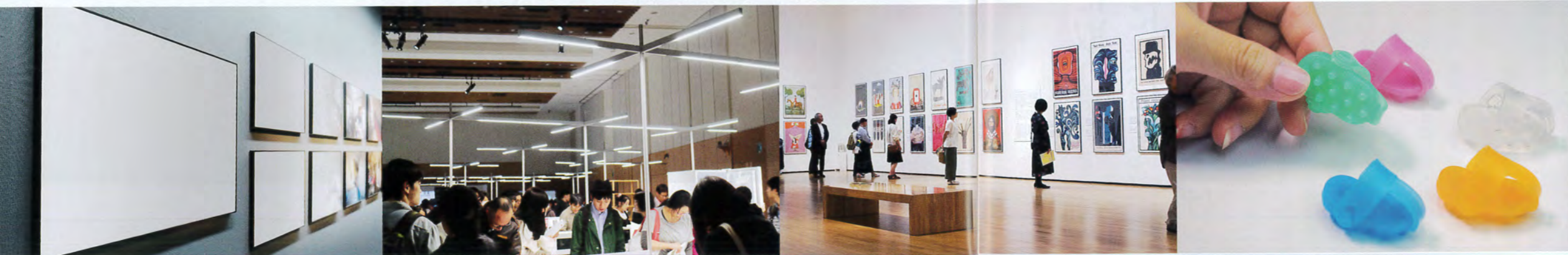
当社は令和元年、「はばたく中小企業小規模事業者300社」(経済産業省主催)に選定されました。これを機に今後は、既存事業のよりいっそうの発展を期すとともに、創業の志に立ち返り、開発型企業としての理想をあらためて追い求めてまいります。



辺に前開きの仕組みで揺動構造を採用することで中身のセット、入れ替えを簡単・確実に行えるようにした。ものに「ビジネス用品宅配大手や文具大手の流通チャネルなども通じてビジネス、個人の両ニーズを取り込んできました。

また、続く商品として投入してきた「グリップフレームシステム」(継手活用によりさまざまな構造物を自在に組み立てられる)、「視認効果に優れた「LEDポスターフレーム」や「LEDポスターパネル」、ファブリックプリントとの組み合わせで大型掲示物にも対応できる「ファブサインフレーム」なども市場から高い評価を得ています。

拡大一途の需要に対応するため、平成5年(本社・千葉県松戸市、倉庫兼工場・同県流山市)、同9年(本社工場・千葉県白井市)と2度にわたって拠点移転・拡充策を断行。さらに令和2年においても、白井事業所の能力強化を進めているところです。なお「ソフケン」は国際特許も取得し、ドイツ・アメリカ・フランスなど世界12カ国においてブランド権利化。とりわけカナダ市場では、現地企業とのアライアンスによる事業展開で



駒村 武夫 こまむら たけお

昭和22年生まれ。東京都出身。都立工芸高校デザイン科卒。通信機器・エレクトロニクスデバイスメーカーにてデザイン業務に従事後、医療・衛生用品メーカーに転じて商品企画・開発業務に携わる。約18年間に及んだサラリーマン生活に区切りをつけ、同58年に独立。特許技術をベースにしたモノづくり企業、株式会社ソフケンを設立し代表取締役就任。

設立 昭和58年1月
事業内容 ①アルミ製ポスターフレーム・展示スタンド・店舗什器・LEDディスプレイなどの製造販売
②金属、ガラス、合成樹脂などを用いた係止具・緊締具・固定具・緩衝部品・医療補助具・雑貨などの製造販売
③その他、モノづくり全般
所在地 〒270-1403 千葉県白井市河原240
電話 047-498-1111
URL <https://www.sofken.co.jp/>